

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 6 月 21 日 (2007.6.21)

【公開番号】特開 2006-71011 (P2006-71011A)
 【公開日】平成 18 年 3 月 16 日 (2006.3.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-011
 【出願番号】特願 2004-255535 (P2004-255535)
 【国際特許分類】

F 1 6 H 41/24 (2006.01)

F 1 6 H 41/30 (2006.01)

【F I】

F 1 6 H 41/24 A

F 1 6 H 41/30 D

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 5 月 9 日 (2007.5.9)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 9】

ステータ 5 はタービン 4 からインペラ 3 へと戻される作動油の流れ方向を調整するものであり、ステータ支持機構 6 2 (後述) を介して図示しない固定シャフトに対して一方向にのみ回転可能なよう支持されている。固定シャフトは、トランスミッション側から延びる筒状の部材であり、メインドライブシャフトが内部を貫通している。ステータ 5 は、ステータ支持機構 6 に支持されるステータハブ 5 2 と、ステータハブ 5 2 の外周側に複数配置されたステータブレード 5 1 とから構成されている。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 1
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 1】

ピストン 2 2 は、円板状の部材であり、フロントカバー 2 とタービンシェル 1 1 との間の空間を、フロントカバー 2 側の第 1 油圧室 3 6 とタービン 4 側の第 2 油圧室 3 7 とに分割するように配置されている。ピストン 2 2 は厚みの薄い板金製である。ピストン 2 2 はトランスミッション側に延びる内周側筒状部 2 3 を内周側に有している。内周側筒状部 2 3 は、タービンハブ 1 3 のフランジ 1 5 の筒状部 1 6 の外周面 1 9 に軸方向及び円周方向に相対移動可能に支持されている。すなわち、内周側筒状部 2 3 の内周面 2 5 は筒状部 1 6 の外周面 1 9 に当接している。筒状部 1 6 の外周面 1 9 には軸方向中間位置に環状溝が形成されている。環状溝内にはシールリング 1 8 が配置され、シールリング 1 8 は内周側筒状部 2 3 の内周面 2 5 に当接している。このようにして、シールリング 1 8 は第 1 油圧室 3 6 と第 2 油圧室 3 7 の内周部分をシールしている。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 2 6 】

４．支持部材及び摺動部材周辺の構造

図 2 に支持部材 7 0 及び摺動部材 8 0 周辺の縦断面概略図、図 3 に支持部材 7 0 及び摺動部材 8 0 の平面図を示す。

(1) 摺動部材の構造

摺動部材 8 0 は、図 2 及び図 3 に示すように本体部 8 1 から構成されており、本体部 8 1 には凹部 8 2 と溝部 8 3 とが形成されている。本体部 8 1 は、摺動部材 8 0 の主要部を構成する部材であり、主面がフロントカバー 2 の軸方向面とタービンハブ 1 3 の軸方向面とに当接している。凹部 8 2 は、支持部材 7 0 の突出部 7 2 と係合するための部分であり、本体部 8 1 の外周側の軸方向トランスミッション側、すなわちタービンハブ 1 3 側に複数配置されている。溝部 8 3 は、半径方向に貫通している溝であり、本体部 8 1 の軸方向トランスミッション側、すなわちタービンハブ 1 3 側に複数配置されている。溝部 8 3 は、作動油の流路として設けられており、ロックアップクラッチ 7 作動時等に作動油が溝部 8 3 を半径方向へ通過する。本実施形態では、溝部 8 3 は 6 カ所設けられており、各凹部 8 2 の円周方向間に 2 カ所ずつ配置されている。